

鹿児島県固有種、ナガセクロツチバチ *Liacos melanogaster* Tsuneki (ハチ目：ツチバチ科) の再発見

河野太祐¹・松元音旺²・山根正気³

¹ 〒 812-8581 福岡市箱崎 6-10-1 九州大学総合研究博物館

² 〒 819-0833 福岡県福岡市西区生の松原 1-2-18 九州大学農学部

³ 〒 899-2704 鹿児島市春山町

Abstract

A scoliid wasp, *Liacos melanogaster* Tsuneki, 1982, was described based on three specimens collected from the Osumi Peninsula, southernmost part of Kagoshima-ken (prefecture), Kyushu, Japan. All the previous collection data are reviewed, showing that this species has been found only in the Osumi Peninsula. The last collection date was 3rd July 1980, and thereafter nothing has been reported on this rare species. In this paper, we record five males collected from Kagoshima-ken in 2018, with one new locality in northern part of the prefecture.

はじめに

ツチバチ科は世界に約 550 種が記載されている有剣ハチ類であり、本邦からはこれまでに 2 族 4 属 24 種が記録されている（寺山・長瀬, 2016）。これらのうちミヘヤツチバチ属 *Liacos* Guérin-Méneville, 1838 には、ツマアカツチバチ *L. erythrosoma* (Burmeister, 1854) およびナガセクロツチバチ *L. melanogaster* Tsuneki, 1982 の 2 種が知られている。

ナガセクロツチバチは鹿児島県大隅半島において 1978 年から 1979 年にかけて採集された 3 個体 (2 ♂ 1 ♀) により記載された。しかしながら、原記載および長瀬 (1982) 以降採集記録が無く、環境省レッドリストおよび鹿児島県レッドリストで準絶滅危惧種に指定されている（環境省自然環境局野生生物課, 2020；山根・河野, 2016）。

筆者らは 2018 年、大隅半島にて本種の分布の再調査を行った際に、本種の採集に成功し、さらに霧島山系より採集された本種の標本を確認することができたため、以下に報告する。なお、本種の和名には「ナガセツチバチ」が当てられることもあったが、本稿では旧来用いられてきた「ナガセクロツチバチ」を用いる。

方法

採集されたナガセクロツチバチは酢酸エチルを用いて殺した後、乾燥標本とした。SZX10 実体顕微鏡（オリンパス株式会社）を使用し、標本の検鏡および同定を行った。標本写真は α7R III デジタルカメラ（ソニー株式会社）に MC-11 マウントコンバーター（株式会社シグマ）を用いてタムロン SP 90mm F/2.8 Di マクロレンズ（株式会社タムロン）を接続した。このカメラユニットを We Macro Rail (We Macro 社) に固定し、コンピュータ制御により 20 枚ほどのピント位置をずらした写真を撮影した。撮影光源にはマクロツインライト MT-26EX-RT（キヤノン株式会社）および自作のディフューザーを用い、得られた複数枚の写真を Zerene Stacker (Zerene Systems 社) を使用して焦点深度合成をおこなった。なお、本報告で使用した標本は九州大学農学部昆虫学教室に收藏される。

Kawano, T., N. Matsumoto and Sk. Yamane. 2021. Rediscovery of *Liacos melanogaster* Tsuneki, a scoliid wasp endemic to Kagoshima, Japan. *Nature of Kagoshima* 47: 399–401.

☑ TK: The Kyushu University Museum, Hakozaki, Fukuoka 812-8581, Japan (email: eupelmidae@gmail.com).

Received: 14 April 2021; published online: 19 April 2021; http://journal.kagoshima-nature.org/archives/NK_047/047-066.pdf

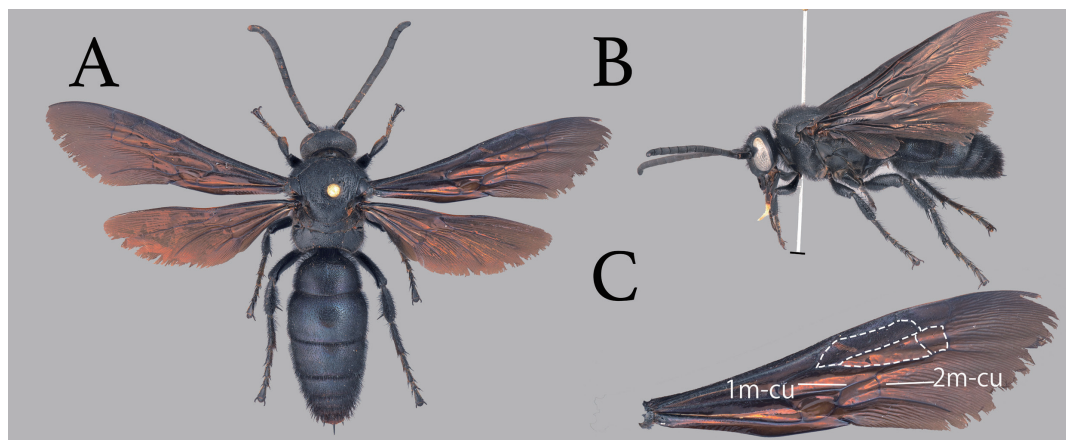


Fig. 1. ナガセクロツチバチ雄。A：背面；B：側面；C：前翅（破線は3つの亜前縁室を示す）。

Fig. 1. *Liacos melanogaster* Tsuneki (male). A: dorsal habitus; B: lateral habitus; C: forewing (dashed lines indicate three marginal cells).

結果

ナガセクロツチバチ

Liacos melanogaster Tsuneki, 1982 (Fig. 1A–C)

【採集記録】1♂, Kagoshima-ken, Kirishima-shi, Makizono-chô, Takachiho (鹿児島県霧島市牧園町高千穂), 23 VII 2017, 前田留理子採集; 2♂, Kagoshima-ken, Kimotsuki-gun, Kimotsuki-chô, Ushiroda (鹿児島県肝属郡肝付町後田), 14 VIII 2018, 松元音旺採集; 2♂, 同, 26 VIII 2018, 河野太祐採集。

備考 霧島市で採集された個体はリョウブの花に訪花していた。肝付町で得られた個体は木漏れ日が差す林縁部を活発に飛翔していたものである。

考察

ナガセクロツチバチ *Liacos melanogaster* の原記載（出版日付：1982.7.31）では、ホロタイプは1979年9月9日に佐多岬の大泊（現在は南大隅町に含まれる）で採集された♂であるが、長瀬（1982；出版日付：1982.8.10）は1979年9月3日に佐多町で採集された11♂をナガセクロツチバチ *Liacos* sp. として記録している。パラタイプ2個体のうち、1978年10月1日に長瀬によって採集された♀の採集地は鹿児島県佐多岬（Sata Promontory）の Koh-ya-cho となっているが、大隅半島にはそのような地名は存在しない。長瀬

（1982）は高山町（現在は肝付町に含まれる）を産地として挙げているので、Kohyama-cho の誤記ではないかと推察される（♂のパラタイプは、現在は南大隅町に属する辺塚で採集されていた）。これに先立ち長瀬（1981）はオキナワリツチバチ *Scolia melanosoma* を大隅半島（佐多町3♂, 5.viii.1979；鹿屋市）から記録したが、これは誤同定で、長瀬（1983）によってナガセクロツチバチと訂正された。長瀬（1981, 1982）で産地として挙げられていた鹿屋市については採集年月日が示されていないが、今回「1♂, 鹿屋市, 3.vii.1980, 長瀬博彦採集」と判明した（長瀬私信）。以上のように、本種はこれまでに大隅半島のみで見つかった。

本種は1980年7月3日を最後に採集記録がなく、本報告は38年ぶりの採集例となる。今回、大隅半島だけではなく、鹿児島県北部の山間部（霧島市）にて採集されたことは大変興味深い。

本種の生態的知見はほとんど知られていない。模式標本を採集した長瀬（1982）によると、本種は8月中旬から9月上旬にかけてカラスザンショウへ訪花するという。今回、新たにリョウブへの訪花が記録されたため、本種は他のツチバチ科と同様に様々な植物の花を蜜源として利用していると考えられる。霧島市で得られた個体は7月下旬に得られ、かなり新鮮で翅の破損も少ない個体であった。標高の高い鹿児島県北部ではより早い時

期から本種の成虫は活動を開始している可能性もある。

本種は九州南部に同所的に分布するナミツチバチ属 *Scolia* Fabricius, 1775 のアカスジツチバチ *S. fascinata* Smith, 1873 と体色が似ており、混同される可能性がある。特に、アカスジツチバチの頭部の赤橙色の斑紋が退化した個体との区別は困難である。しかし、ミヘヤツチバチ属は前翅の第2m-cu 脈は第1m-cu 脈に接続され第2中室を形成するとともに、3個の亜前縁室を形成する (Fig. 1C) が、アカスジツチバチが属するナミツチバチ属では前翅の第2m-cu 脈はなく、亜前縁室は2個のみであることから区別が可能である。一方で、ナガセクロツチバチと同属のツマアカツチバチ *L. erythrosoma* とは分布が異なる。ツマアカツチバチは朝鮮半島から東南アジアにかけて広く分布し、国内では八重山諸島にのみ生息する。また、ツマアカツチバチでは腹部の第3節以下が赤褐色であるのに対し、ナガセクロツチバチは腹部全体が黒色であることで区別できる。

謝 辞

長瀬博彦氏 (鎌倉市) と田埜正氏 (福井市) には原稿のチェックをお願いし、貴重な助言をいただいた。特に長瀬氏からは本種が採集された経緯

や標本データについて詳しいご教示をいただいた。前田留理子氏 (鹿児島市) には霧島で採集された標本をご提供いただいたいただき、米田洋斗博士 (帝装化成) には文献の入手にご協力いただいた。また、塚田拓氏 (鹿児島市) には松元が採集した標本を同定し、本論文発表のきっかけを作っていただいた。ここに深く感謝の意を表する。なお、この研究の一部は JSPS 科研費 16J06326 および九州大学ロバート・ファン/アントレプレナーシップ・センター (QREC) 「アカデミックチャレンジ 2015」からの助成を受けた。

引用文献

- 環境省自然環境局野生生物課, 2020. 環境省レッドリスト 2020. <http://www.env.go.jp/press/107905.html> [2021年4月7日参照].
- 長瀬博彦, 1981. 鹿児島県の蜂. *Satsuma*, (86): 253–289.
- 長瀬博彦, 1982. 南九州の蜂—4—. *蜂友通信*, (14): 57–78.
- 長瀬博彦, 1982. 鹿児島県の蜂 (追捕1). *Satsuma*, (89): 29–32.
- 寺山 守・長瀬博彦, 2016. ツチバチ上科 Scolioidea. Pp. 248–263, 600; pl. 56. 寺山 守・須田博久 (編著) 日本産有剣ハチ類図鑑. 東海大学出版部, 平塚.
- Tsuneki, K., 1982. A new species of Scolidae from Japan (Hymenoptera). *Special Publications of the Japan Hymenopterists Association*, (23): 3–5.
- 山根正気・河野太祐, 2016. ナガセクロツチバチ. P. 155. 鹿児島県環境技術協会 (編集委託・発行) 改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物 Red Data Book 2016 動物編, 鹿児島県.